
短編小説 告白

くりこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編小説 告白

【Nコード】

N3165V

【作者名】

くりこ

【あらすじ】

ショート作品です。中学生みっちゃんの告白とは……。意外なオチをつけてみました。

他サイトにてくりこ名義で投稿済み作品を転載しています。

「瀬野クンの試合見に行かん？ 七回くらいだから、まだ投げてればいいけど……」

部活の交流試合の帰り道だ。市営球場の近くへ差し掛かった時に、みっちゃんがい出したように提案してきた。

私はさっきから考えてた事を見透かされた様でドキン！ と胸が鳴る。

瀬野クンは、野球部でピッチャーをしている。

中学一年の時の同級生。三年の今は別々のクラスだが、私は密かに彼のことが好きだった。

一年の時は、席が隣り同士で仲は良かったと思う。横浜から転校して来たばかりの彼は、どこか大人びていてしゃべる話題も面白かった。

脈はアルと思った。

けど……。

彼が好きな子は、このみっちゃんらしい、と風の便りに聞いた。

みっちゃんは人気者だ。

幼馴染みな私達は保育園からの仲良し。ボーイッシュで明るい。サバサバした性格は誰からも好かれてる。

みっちゃんと瀬野クンなら、美男美女で完璧なカップルなんだ。私は秘めた想いをギュッと押し込んだ。

観覧席に座ると、ちょうど瀬野クンが投球フォームに入ったところだった。

七回裏。ツーアウト満塁、スリーボール。

球はそろそろ浮き出している。三方ヘランナーを抱えた彼は、マウンドの上で額の汗を拭っていた。

みっちゃんが彼を見つめながら、ボソツとつぶやく。

「なあ。ヨシコって……瀬野のこと好きなん？」

「え……」

「ウチ、見たんよ。消しゴムのカバーの裏。瀬野の……名前が書いてあったの見たんよ。アレ、今流行ってるおまじないやろ？ 両想いになれる……」

げ！ いつ見たんだろ？

赤くなった私が返答に窮してると、みっちちゃんがポケットから何かを出す。

白い手のひらには、私とは色違いの消しゴムがあった。彼女がそれを私へ寄越す。

「ゴメンね。勝手に見ちゃって。だから……ウチのも見てイイよ。誰かに見られたらオジャンやけど。これでおあいこやネ」

みっちちゃんが強引に私へ握らせる。ドキドキしながら、カバーをずらす。ペンで小さく書かれた名前を見て、私は目を見張った。

みっちちゃんがおまじないをかけた相手は。この私だったんだ。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3165v/>

短編小説 告白

2011年10月8日19時13分発行